

## 令和2年度

### 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

### 自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人新潟市芸術文化振興財団	
施 設 名	新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）	
助 成 対 象 活 動 名	新潟ファイブ・リングス・プロジェクト	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	53,648	(千円)

# 1. 事業概要

## (1) 事業計画の概要

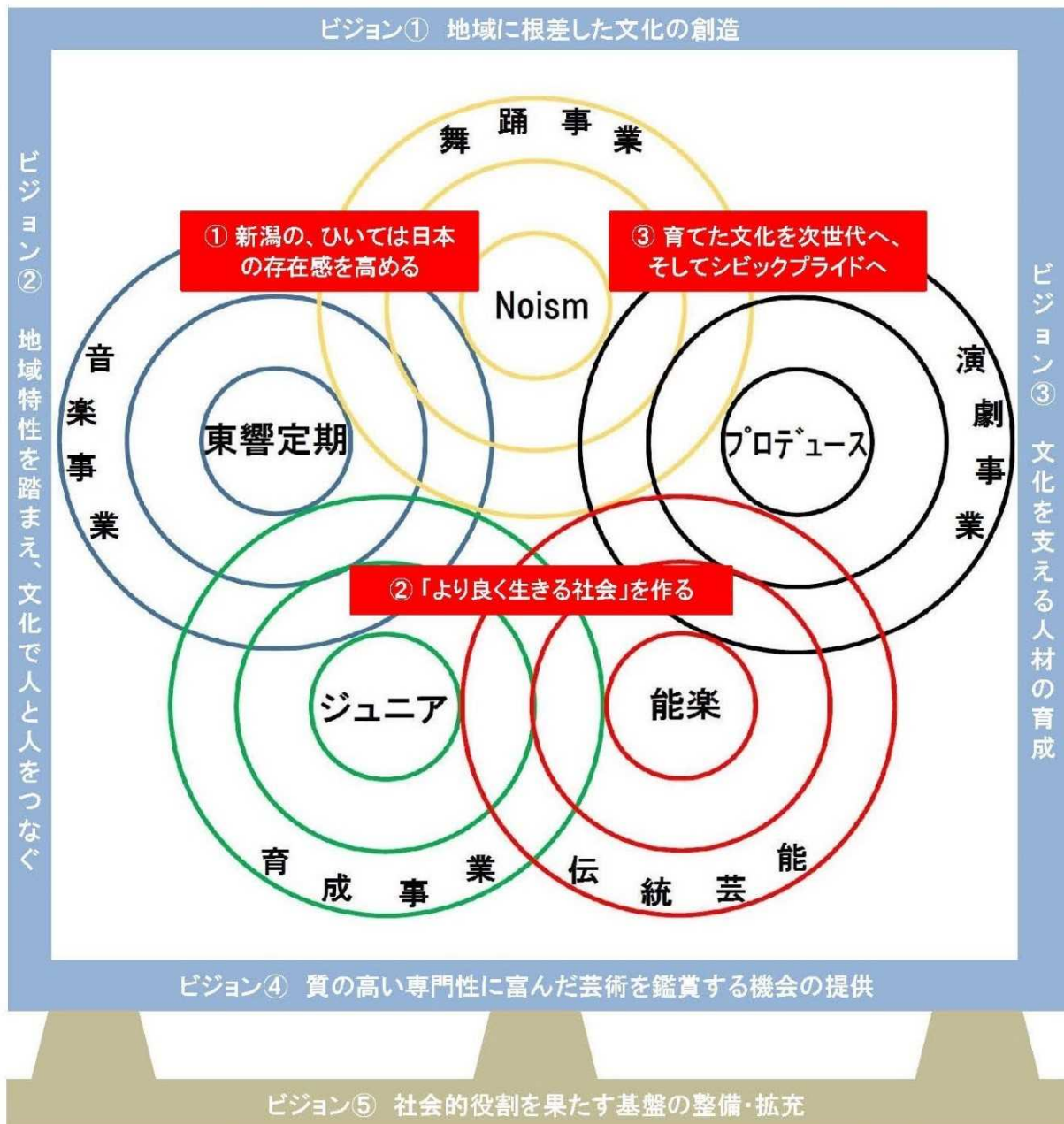
全体図（概念図）

(事業名) 新潟ファイブ・リングス・プロジェクト

### りゅーとぴあ 3つの社会的役割

- ①新潟から全国へ 世界へ発信
- ②芸術文化を通じて「生きる力」を育む
- ③新潟の文化を次世代へ継承し、市民の誇りにつなげる

社会的役割につながる **最終アウトカム**



(2) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	東京交響楽団新潟定期演奏会 (音楽事業)	R2年7月26日他※	ジョナサン・ノット(指揮・映像出演) 東京交響楽団(管弦楽) ストラヴィン スキー: 交響曲ハ調 他	目標値	7,000
		コンサートホール		実績値	2,595※
2	りゅーとびあ発「源氏物語の 女たち」(演劇事業)	R4年度に延期※	緊急事態宣言を受けてR2年度を中 止し、会場・キャスト・スタッフの予 定を鑑みR4年度へ延期	目標値	3,060
				実績値	0※
3	Noism事業(舞踊事業)	R2年8月27日他※	演出振付: 金森穂 衣裳: RATA RATTARR 椅子: 須長檀 出演: Noism0、Noism1、Noism2 他	目標値	4,530
		劇場 他		実績値	1,917※
4	能楽事業(伝統芸能事業)	R2年10月17日他※	解説 遠藤喜久、仕舞「松風」(観世 流) 観世喜正、狂言「茶壺」(和泉流) 野村萬斎、能「土蜘蛛」(観世流) 他	目標値	798
		能楽堂		実績値	508※
5	ジュニア音楽教室事業(育 成事業)	R2年7月25日他※	鯨岡徹(指揮) 川崎絵都夫: 風と光と 大地のうた 他	目標値	2,652
		音楽文化会館 他		実績値	995※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価					
事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。					
<p>本助成金の事業計画「ファイブ・リングス・プロジェクト」は、計画策定時において「ミッション、ビジョン、地域の特性等」と「アウトカム」が連関する構造で組み立てを行い「3つの最終アウトカム」を発現させるために「13の中短期アウトカム」と「2つの内部変化」を設定している。</p> <p>下記ロジックモデルの「アウトプット」「内部変化」のうち、赤字はR2年度までに目標（指標）を達成、青字は同年度までに一部達成している。新型コロナウイルスの影響もあり未達となっているもの、事業計画上R3年度以降に取り組むものについては今後達成を目指す予定であり、事業計画は概ね当初の予定通り進んでいる。</p>					
ロジックモデル（芸文振指示で作成必須）					
<b>インプット</b> <small>(投入資源)</small>	<b>活動</b> <small>(助成対象事業)</small>	<b>アウトプット</b> <small>(目標：活動による直接の結果)</small>	<b>アウトカム</b> <small>(成果・便益：活動による生活、社会、経済への影響や変化)</small>		
	5リング/コア事業		中短期アウトカム	最終アウトカム	
<b>ヒト</b> 職員・スタッフ 顧客（会員） 市民 アーティスト スポンサー 自治体 設置者 etc	1. 舞踊事業 /Noism事業  2. 音楽事業 /東響定期 演奏会  3. 演劇事業 /新潟発 プロデュース  4. 育成事業 /ジュニア 育成事業  5. 伝統芸能事業 /能楽事業	<b>全国&amp;海外公演の実施</b>	1. 新潟のプレゼンス向上	① 新潟の、 ひいては 日本の存在 感を高める	
<b>モノ</b> 施設 舞台機材 チラシ ポスター Webサイト 事務機材 etc		<b>演出家等が新潟に長期滞在            しワークショップ等開催</b>	2. クリエイティブクラス(演出家・ 出演者等)身近になる		② より良く 生きる 社会を作る
<b>カネ</b> チケット収入 参加料収入 スポンサー協賛金 寄付金 友の会会費 公演料 補助金 助成金 etc		<b>遠方からお客を呼ぶ、音楽            フェスティバル等の実施</b>	3. 交流人口の拡大 4. 地域経済にプラス	③ 育てた文化 を次世代へ シビック プライドへ	
		<b>多様性への理解を深める            質の高い演目の開催</b>	5. 多様性への理解促進		
		<b>文化分野以外と協働で社会            参加の機会を作り継続</b>	6. 社会包摂の拡大		
	<b>ターゲットを変え長期的            &amp;反復で事業を実施</b>	7. 生活の質の向上			
	<b>文化施設・団体との共同            事業の実施</b>	8. 地域で文化を支え継承			
	<b>アウトリーチ研修会（他            団体向け）の開催</b>	9. アウトリーチ手法普及			
	<b>アウトリーチ等への出演機会</b>	10. アマチュア演奏家増加			
	<b>ジュニア育成事業の参加            者増 O B ・ O G の活躍</b>	11. 地域の文化活動の活性化			
	<b>がアリエーションに富む事業展開            全国(世界的)連携公演</b>	12. 舞台芸術が、より身近 になる			
	<b>鑑賞者交流の機会等を作り、            鑑賞者をつなげ創客</b>	13. 鑑賞者の交流拡大			
		↑ アウトカム発現に必要な リューとぴあ2つの【内部変化】 ・ 専門人材（職員）の確保    ・ 財源の多様化			
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。					
<p>上記ロジックモデルから何点が例示のうえ説明する。中短期アウトカム【2. クリエイティブクラスが身近になる】を発現させた活動の一つである『Noismワークショップ』には、視覚障害者を含む幅広い市民が参加した。また同【7. 生活の質の向上】を発現させた活動である『準フランチャイズオケ東京交響楽団新潟定期演奏会（R2年度は特別演奏会として実施）』は、コロナ禍で心が沈みがちな市民に1回も中止せずに演奏会を届け、アンケートには喜びの声が数多く寄せられた。これらには助成に値する《社会的意義》が認められる。更に同【11. 地域の文化活動の活性化】を発現させた活動である『ジュニア音楽3教室の運営』等では、指標を上回る参加者を得たうえ、十分なコロナ対策下での活動継続と演奏会の開催を行っており、助成に値する《文化的意義》が認められる。加えて、りゅうとぴあ内部変化【財源の多様化】に資することも視野に『ブランド・ムービーの作成と配信』を行い市内外から注目を浴びており、寄付金獲得増及びアフターコロナにおける広域集客への寄与《経済的意義》が期待できる。</p>					

## (2) 有効性

### 自己評価

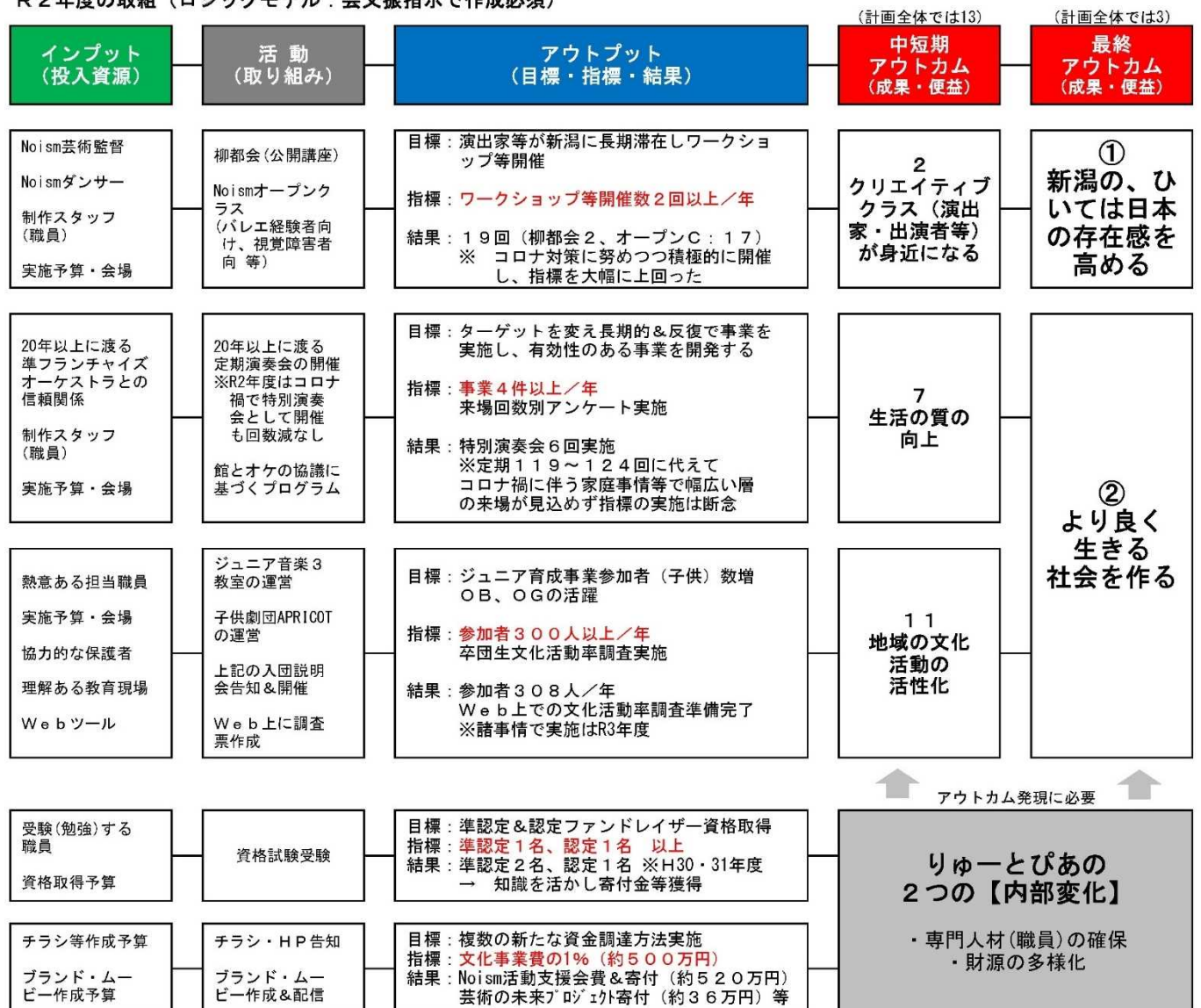
目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

妥当性の自己評価で述べたとおり、本助成金の事業計画「ファイブ・リングス・プロジェクト」は、計画策定時において「ミッション、ビジョン、地域の特性等」と「アウトカム」が連関する構造で組み立てを行い「3つの最終アウトカム」を発現させるために「13の中短期アウトカム」と「2つの内部変化」を設定している。

R2年度は「3つの中短期アウトカム」と「2つの内部変化」を重点項目（交付申請書記載）とし、下記ロジックモデルのとおり7指標中5指標を達成（赤字）し「最終アウトカム」の発現に一定程度繋がったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり2指標が未達成であった。ワクチン接種が進みコロナ収束が期待できる、R3年度以降に改めて指標を達成し「最終アウトカム」発現をより確実にしたい。

なお、R2年度は新型コロナウイルスの影響により事業計画の「一部事業日程変更」「入場者数目標未達（観客マインドを考慮し原則キャパ1/2実施）」「事業費の大幅な変更（減額）」となった。

R2年度の取組（ロジックモデル：芸文振指示で作成必須）



(※) R2年度「未達の目標・指標」

- ・【目標】ターゲットを変え長期的&反復で事業を実施し、有効性のある事業を開発する  
→ 【指標】来場回数別アンケート実施 ※R3年度実施予定
- ・【目標】子供向け教室事業OB、OGの活躍  
→ 【指標】卒団生文化活動率調査実施 ※R3年度実施予定 (R2年度に調査票作成済)

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

新型コロナウイルスの影響を大きく受けた1年であった。各事業については、公演中止、次年度以降への延期、内容の変更、入場者数の制限を強いられたが、それぞれの事業でその時点で選択し得る最善の方法を選択し、事業を適切に実施できたと考えている。事業を安全安心に実施することを重視し、国の基準より厳しい入場数制限で行ったため、入場者数、収益率のアウトプットについてはどの事業も大きく目標を下回った。

以下 ① アウトプットの概要 ② コロナウイルスの影響

#### 1. 音楽事業「東京交響楽団新潟定期演奏会」

①【入場者数】2,595人 (目標:7,000人)

【満足度】平均98.7% (目標:95%)

【新潟初演曲数】12曲 (目標:2曲以上)

②新型コロナウイルスの影響により、出演者・曲目が大幅に変更となり、入場数制限の問題もあったことから、定期会員制度での販売分を一旦全て払い戻しし、名称も新潟定期演奏会を特別演奏会と変更して行った。

#### 2. 演劇事業「りゅーとぴあプロデュース」【公演中止】

①【入場者数】0人 (目標:3,060人)

②R2年5月の全国緊急事態宣言の解除後に、関係者全員(キャスト・スタッフ)と実施可否の協議を行った結果、R2年度での上演を中止し、R4年度に延期した。

#### 3. 舞踊事業「Noism事業」

①【入場者数】1,917人 (目標:4,530人)

【満足度】平均98.3% (目標:95%)

【他劇場との連携】2カ所 (目標:2カ所)

②コロナ禍で夏公演は新潟でのプレビュー公演を実施するのみとなったが、感染拡大防止策を徹底し、以後の事業はほぼ予定とおりに実施することができた。

#### 4. 伝統芸能事業「能楽事業」

①【入場者数】508人 (目標:798人)

【満足度】平均96.3% (目標:95%)

②公演の延期、出演者変更等の影響はあったが、ほぼ予定どおり事業を行うことができた。

#### 5. 育成事業「ジュニア音楽教室事業」

①【入場者数】995人 (目標:2,652人)

【満足度(公演)】100.0% (目標:95%)

【団員数】272人 (目標:299人)

②感染拡大防止のため練習自体が中止せざるを得ない日々が続く、定期演奏会も通常どおり行うことができなかった。あまりにも変化した日常生活に、子どもたちだけでなく保護者の戸惑いも大きく、今後もさまざまな形での影響が懸念されている。

## (4) 創造性

### 自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

本事業計画「ファイブ・リングス・プロジェクト」は、公立の劇場・音楽堂である当館が地域社会に向けて5つの文化的・社会的・経済的アプローチを行ない、それが多層的な影響を発揮することを意図している。これにかかる劇場・音楽堂等の資源は、全国で唯一の劇場専属コンテンポラリー・ダンス・カンパニーである Noism、当館を準フランチャイズとして様々な活動を展開する東京交響楽団、設置された能楽堂を生かすことで奥行きのある企画を実現している能楽事業、地方の一劇場・音楽堂でありながら制作した舞台がほぼ全都道府県で上演される勢いのプロデュース演劇公演、全国的にも珍しいオーケストラ・邦楽合奏・合唱という3つの通年活動を行なうジュニア音楽教室であり、これがそれぞれのジャンルにおけるコア事業となっている。

約900席の優れた機能を持つ劇場と、充実したスタジオを活動の拠点としてH16年に設立したNoismは、我が国において唯一の公共劇場専属舞踊団として活動してきており、現時点においても無二の存在である。17年にもわたり、他の追随を許さない優れた独創・新規・先導性がある。

約2,000席のコンサートホールで開催されている東京交響楽団演奏会は、コロナ禍の中でもR2年度に特別演奏会として5回開催した。ストラヴィンスキーやリャードフ、ベルク等といった作曲家の作品がプログラムに並び、プロのオーケストラによる新潟初演曲が12曲にもなった。これは東京交響楽団による演奏会が単発のものではなく、H10年以来継続して開催してきたことからこそ実現できていることである。プロのオーケストラが、本拠地から数百キロも離れたところでこれほどの回数・長い期間、定期的に演奏会を開催してきたことは我が国の歴史上他に例を見ない唯一の事例であり、優れた独創性がある。

専門ホールとしての能楽堂の存在と、そこで培った人脈を生かして、当館では能・狂言の上演と様々な対象・場所で行なう伝統芸能のアウトリーチ・プログラムを行なっている。R2年度はコロナ禍の中であったが鑑賞事業3公演を実施し、508人の観客を集めた。これほど活発に事業を展開している能楽堂は、首都圏以北の東日本には存在せず、優れた先導性がある。

R2年度はコロナ禍により中止を余儀なくされたが、舞台芸術を生み出す劇場として演劇のプロデュース公演を継続して行なってきた。そこで生み出された舞台作品は、全国各地で上演されてきている。これは、優れた舞台機構を持つハードとしての劇場と、それに付随して当館が擁している専門的人材の能力、そして継続した運営によって培ってきた全国的な人脈の成果に他ならない。このように、全国に波及する事業展開を実現している公立の劇場・音楽堂は極めて少なく、優れた新規性がある。

また、ジュニア音楽教室の通年の活動には、企画制作ノウハウの蓄積が不可欠である。特に他にほとんど例がないジュニア邦楽合奏の育成・運営は、その手法だけでなく演奏曲そのものを作り出す（作曲委嘱）ことから始めなければならず大きな困難を伴ったが、それゆえに極めて独創性・新規性の高い取り組みとなっている。昨今は全国各地に広がっているジュニアオーケストラも、新潟市の場合は初心者であっても受け入れ、ステップアップする独自カリキュラムを整備している。このことにより参加者が明確な基準による目標設定が可能となり、入団後早い人では3～4年で有名な管弦楽曲の大曲に挑戦することができている。実際にR2年度においては、演奏会でリムスキー＝コルサコフ作曲の交響組曲「シェヘラザード」を取り上げた。

## 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

コロナ禍の中であっても当館は様々な工夫と感染対策を行ない、いち早く公演事業を再開した。東京交響楽団の演奏会は7月26日を皮切りに5回、Noismは7月10日から関連事業も含めて12回、能楽事業は10月17日以降3回、ジュニア音楽教室は延817回に及ぶ練習と2回の演奏会を開催した。いずれも日常生活で様々なフラストレーションや不安を感じることの多かった新潟市民から大好評をもって迎えられ、多くの場合はキャパシティ50%制限であったがほぼ満席となる公演がいくつも出た。「開催してくれて本当に良かった」「こんなときだからこそ舞台を求めている」等、お客様からの熱い反応がアンケートに数多く記入された。

Noismは設立以来これまで、国内はもとより欧州・北米・アジアなどで58回の海外公演を重ねてきた。芸術選奨文部科学大臣賞（舞踊部門H20）、朝日舞台芸術賞・舞踊賞（H21）、毎日芸術賞（R1）など多くの賞を受賞してきており（団体・個人を含む）、また、副芸術監督の井関佐和子がR2年度（第71回）芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。R1年、新潟市において事業継続の検討がなされたことをきっかけに多くの注目が集まり、全国紙などに繰り返し記事が掲載されたが、これはNoismが独創的で先進的な活動の証左であると考えられる（活動は3年間延長となり、そのことも肯定的な評価を受けた）。

東京交響楽団の演奏会は、毎回公演後のレビューが地元紙に掲載されている。専門家による言わば「定点観測」の記録であるが、ほぼ毎回の公演において高い評価がなされ、それを市民が広く共有している。公演のレビューが地方紙として全国第10位の発行部数を誇る「新潟日報」に当然のものとして掲載されているようになったことは、この事業を継続してきたことによる大きな変化であった。

人材育成面においても、多くの成果が生まれている。ジュニア音楽教室で育った子ども達のうち、何人もが音大に進み、さらに研鑽を積んでジュニア音楽教室の講師となっている。これは、息の長い育成事業を続けてきたことの大きな成果である。また、それ以外の講師陣も地域の音楽家と首都圏から招いている優れた人材を組み合わせ、充実した指導体制を作ることができている。

当館の設置者である新潟市は、当館の施設機能並びに当財団の人的資源を、広く新潟市民の文化的生活の向上に資することを願っている。そこで当館はこれまでの顧客層だけではなく、SNSでの情報発信や東京交響楽団演奏会プログラムのビハインド・ストーリーを広く紹介する「リゅーとぴあん」の制作・配布、当館職員がFM番組等に出演してチラシには書けない公演の魅力を紹介するなど、広く市民各層にアートの魅力を伝える活動を行っている。また、直接チケット・セールスを行なうものではないが、市民各層から当館に対してシンパシーを持っていたりするためのブランド・ムービー制作も行ない、ホームページ上で公開してきている。

これらのことが、地域社会における当館及び当館の活動に対する理解促進につながり、新規顧客の獲得とサイレント・パトロンを含めた支持拡大に結びついていくことが期待される。



## (5) 持続性

### 自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

本助成金の事業計画において、アウトカムを発現させるための必要な内部変化として、「専門人材（職員）の確保」「財源の多様化」を掲げている。

#### 【専門人材の確保】

ファンドレイザー（認定1名、準認定2名）を活用してNoism活動支援&寄付金・芸術の未来プロジェクト寄付金等の獲得を進めた。また、広報宣伝スタッフの専門スキルを活用して、コロナ禍におけるりゅーとぴあの事業活動を紹介する動画「ブランド・ムービー」、展示「INFOBOX」、施設の楽しみ方を紹介するガイドBOOKを作成、「舞台芸術が、より身近になる」（中短期アウトカム12）を発現する試みとした。更に、衛生管理者（第二種衛生管理）の免許を職員が取得、就労者の健康障害の防止に健康の保持増進に務め、アウトカム発現に有益な人材を確保した。

#### 【財源の多様化】

ホールスポンサー新規4社獲得、文化庁の「チケット払戻放棄寄付制度」を利用した寄付金獲得により新たな財源を確保した。当館の「施設管理事業」及び「自主文化事業」に活用できる特定費用準備資金の積立限度額を拡大。緊急を要する施設保全の費用や事業実施に係る準備費用などに活用する財源を拡充。行政の「会計年度独立の原則」とのギャップを埋め、持続可能な事業運営のための資金確保を図った。

現在、事業活動実施において新型コロナウイルス感染防止対策に多くの労力と時間を費やしている。飛沫防止対策、収容人数・参加者数の制限（ディスタンス確保）、都市間移動制限、休業要請などガイドラインや社会的要因があまりにも大きい。これが解消されない限り有効性のある事業活動、持続的なアウトカムの発現は困難だが、ワクチン接種が進みコロナ収束が期待できるR3年度以降の状況改善に期待し、各種準備を進めている。

### 持続性PDCAサイクル

事業運営 人事戦略 経営戦略 ネットワーク

